西町通

1)

現在の三

戸享保年間(一七

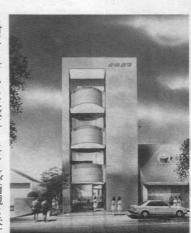
ガシ 主として紙

つマは創

薬局とともに今から二六 ガシマの フィスビ 年前にさかのぼる。 代将軍吉宗治世、 0) 中心、 ルーツは株長島 ルを構える株ナ 西側にオ 江 目 から 屋を開業した長島伊兵衛 5 現在のナガシ 一七三六年)に絹買問

薬局の商祖である。 伊兵衛は屋号を小島屋 市の重要文化財 長島

昭和初期の長島紙店 紙とろうそくを納めてい が陣屋で使用する筆墨硯 達を務めた四代目伊兵衛 ともに刻字されてい 伊兵衛が寄進者の人達と の古文書に伊勢崎藩御用 元治元年 (一八六四年) る



三光町にある現在の㈱ナガシマ

年(一八一九年)完成の「河 に指定されている文政 歴史を感 0 社長 息子謹一さんと現在地に その後、長島薬局の経営を の二店が同じ西町で商 弟さんに任せ、昭和元年に を賭し身代を発展させた。 じさんが両親と夫亡き後 一十八歳の若さで商家長 精を出し親しまれてき 楽長島」 小島屋長島紙店」 戦後を通じ「紙長島」 の基礎を築いた。 七代目となり、 現在の株ナガシ の愛称で姉弟 を設

「矩尺」を図案 る。 店訓は 角を意味 たもので、 主義・良品廉価 和を経営の根幹とす も完成 の販売 が現社長が昭和三十 伊兵衛の伊の字をカ の拠点も充実した。 ス家具、 変化に対応、 平成四年に新社屋 年から〇 られた。 商標のイは商祖 と語って 「人と人との 「お客様第 を表明 と業種転 営業活動 Ă 事務用品 てい 才

長島勝也氏祖母 させる。 大正 七年、 現在 長島ふ

た記録があり、